

## 序

『まことに世界は神がつくり給うたが、オランダだけはオランダ人がつくったということが、よくわかる』。ジールランドの干拓地を訪れた司馬遼太郎氏がオランダ紀行に書いている。13世紀から干拓によって国土を形成してきたオランダ国民の誇りに対する最高の讃辞である。

10年ほど前、ゾイデル海を締め切った延長30kmのアフシュライトダイクを車で走った。大堤防は1920年に着工され1933年に完成している。大堤防の中ほどにある展望塔に立ち、締め切られたアイゼルミアを眺め感慨に浸った。この国の人達は、大型施工機械のない時代に海底の粘土を浚渫し、粗朶を敷き、その上に輸入した石材を一つ一つ積み上げるといふ気の遠くなるような作業を重ねた。展望塔のレリーフには三人の労働者が描かれ『将来を樹てないと、民族はなくなる』という意味のことが記されている。国土の創造と保全のためにこのような大事業が成し遂げられたことに改めて感動した。

小学校の国語の教科書に「オランダの少年」という一文があったことを、いまでも良く覚えている。『8歳の少年が水門から水が漏れているのに気づき、自分の腕に衣服を巻きつけて穴を塞ぎ、身を挺してオランダを守った』という。この物語は、オランダという国では、堤防が国土を守っていることを、子供でも良く知っていると教えてくれる。

土木学会 教育企画・人材育成委員会においては社会的共通資産（社会資本）が国民の安心と安全を護り、健康的で豊かな生活、活力ある経済・産業の根幹であることを、初等・中等・高等教育の課程で広く理解され、教育がなされることを目的に、10の小委員会を設置し活発な活動を行ってきている。初等教育においては多くの子供達はその重要性と必要性を理解し、そして、土木工学にかかわる技術者や専門家が美しい国づくりを目指しその整備と保全にかかわっていることを知ってくれるよう、実務者が直接子供達にわかりやすく語りかけ、また教材に取り込まれるよう働きかけている。将来、これらの子供達の中から、「土木」に関心を持ち職業人として活躍してくれる多くの人材が育成されることを期待する。中等及び高等教育においては、学生が専門的知識を身に付け能力を涵養するために、高校・高専・大学・大学院における教育内容と方法を検討している。キャリアパスを示して次代を担う若者の目標設定を助け、彼らが自信を持って安心して研鑽できるようにし、さらに、我が国の技術者が有する高い技術力を国際的に活用し貢献することや、熟練技術者の能力を活用するための方策などを検討してきている。近年、社会におけるあらゆる分野において女性の活躍が顕著である。土木分野においても、小委員会の活動や女性実務者の努力により次第に活躍の範囲が広がってきていることが実感される。

この小冊子は、平成19および20年度における「教育企画・人材育成委員会」における活動成果を要約し今後の活動方針を示したものです。本委員会の活動にご理解を戴き、活動に対するご意見を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年3月

土木学会 教育企画・人材育成主査理事 上田 茂